令和８年産
カルパーコーティング

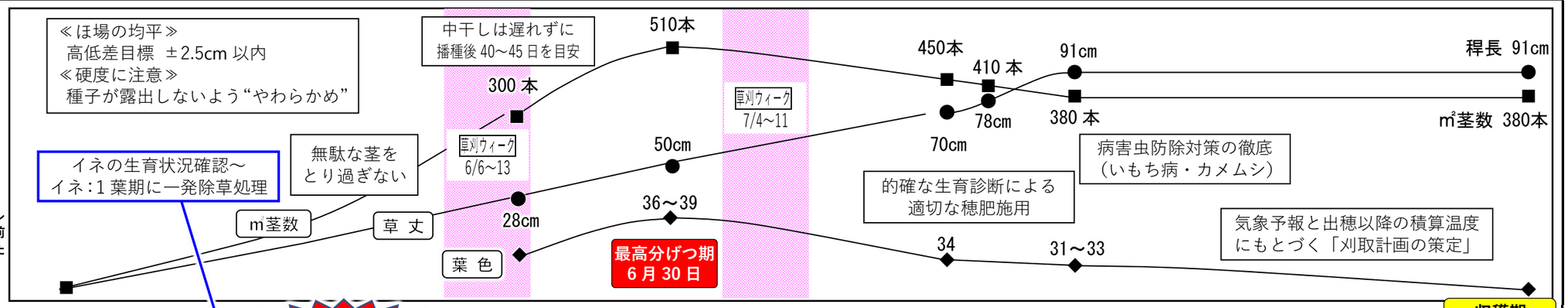
ＪＡえちご中越 さんとう地域「カルパー直播コシヒカリ」栽培暦

★ 担い手・法人経営体の作期分散や省力・低コスト栽培を目指した作型です

月	4 月					5 月					6 月					7 月					8 月					9 月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数																	-30			-18	-10		0							+42

生育ステージ

○種子の準備（10㌃当たり）
コーティング前に通常の浸種～催芽処理を行う（伸ばしすぎない）
・種子籾(乾籾換算)　2.5～3.0kg
・カルパー粉粒剤16　2.5～3.0kg
○ほ場の準備
①本代かきの７日前頃に荒代作業を行い、ほ場を均平にする
②代かきは出来るだけ播種の直前（１～２日前）に行い、初期雑草の発生を抑える
③播種時の土のかたさはヨーグルト状（乾かし過ぎに注意）播種前の落水は、播種前日の夕方、または当日の早朝に行う
○苗立ち率　目標80%
苗立ち数　50～80本／㎡
（鳥害等により苗立ち数が30本／㎡程度となっても、植え直しは不要）



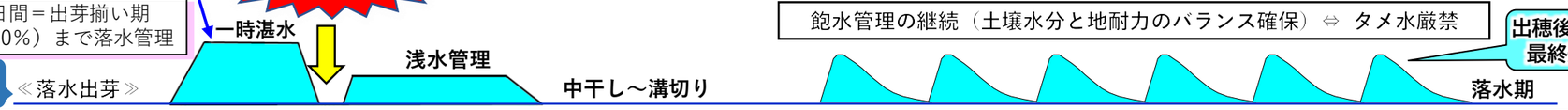
播種 5月1日 → 4葉期：一時落水 分げつ・発根の促進 → 中干し開始 6月15日 → 出穂30前に中干し終了 → 幼穂形成期 → 1回目穂肥 7月25日 → 2回目穂肥 8月2日 → 出穂期 8月12日 → 収穫期 9月23日～

刈取後、稲わらすき込み実施

水管理

播種後１０日間＝出芽揃い期
（目標苗立数 90%）まで落水管理

畦畔に沿って額縁状に溝を切って排水を促す
→排水不良田ではさらに対角線状に作溝する



飽水管理の継続（土壌水分と地耐力のバランス確保）⇔ タメ水厳禁

出穂後２５日以降または用水の最終通水日にかん水を実施!!

栽培管理のポイント

Point 1
～発芽・苗立ちの安定に向けて代かき作業を丁寧に行います～

① 仕上げ代かきは播種直前に実施（播種1～2日前）
→播種時に十分覆土される田面硬度とする
② 田面の均平作業はていねいに
→高低差目標　±2.5cm以内
③ 土壌診断結果に基づく「土づくり肥料の施用」

Point 2
～適期播種・適正管理により初期生育を促します～

① 播種量：2.5～3.0kg／10ａ、苗立率：80%、苗立数：50～80本/㎡、播種深度：1cm程度
② 播種後10日間は落水状態を保ち出芽を促進（出芽揃い期：目標苗立ち数の90%を確保したら入水）
③ 播種後10～14日（イネ：1葉期）に除草剤（一発処理）を散布

Point 3
～生育状況にあわせた生育調節で根・茎の健全化を図ります～

① イネ4葉期前後に3～5日程度、一時落水管理（田干し）する（水の更新）→分げつ・発根の促進
② 播種後40～45日（稲７葉期：目標穂数の80%＝茎数300本／㎡）を目安に中干しを開始する
③ 全ほ場で溝切りを実施（10条：3ｍに１本の間隔）

Point 4
～適切な水管理により稲体機能を維持します～

① 中干しは、小ヒビが入る程度になったら終了する
② 中干し以降は、田面が強く乾くことがないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）
③ 完全落水は、出穂後25日以降を目安に実施（暗渠開放→遅く）異常高温時：速やかに一時湛水

Point 5
～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① １回目穂肥は生育診断～生育状況に応じて、出穂前18～15日に施肥（籾数確保・倒伏防止）
② ２回目穂肥（出穂前10日）は、確実に施肥して後期栄養を確保
③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥（過剰施肥は避ける）

Point 6
～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 出穂後の積算気温（1000℃）、籾の黄化率（85～90%）を確認～適期収穫する（異常高温時は早めの収穫を検討）
② 適切な乾燥・調製作業による高品質米仕上げ
③ 収穫後は、早めに土づくり資材の投入＋稲わらすき込み

《施肥のめやす》　（成分 kg／10a）

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後	－	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材
基　肥	～田植え	1.0～1.5	地力に応じて
穂肥１	出穂18～15日前	1.0	遅れずに施肥～籾数確保
穂肥２	出穂10日前	1.0～1.5	しっかり施肥～登熟向上
合　計	－	3.0～4.0	＊一発基肥 トータルN：5.4kg

《生育のめやす》

生育ステージ	時期	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉色（SPAD）
1回目穂肥	7/25	70	450	34
2回目穂肥	8/2	78	410	31～33
出穂期	8/12	91（稈長）	380（穂数）	

《品質向上・収量確保目標》

玄米1等級比率	90%以上
10当たり収量	480kg

《品種特性》

早晩性	耐倒伏性	葉いもち・穂いもち	紋枯病
中生	弱	真性抵抗性を持つ	やや弱

《収量構成要素》

収量（kg/10a）	1穂籾数（粒）	穂数（本/㎡）	㎡ 籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
480	70	380	266	84.0	21.5